

2011年3月13日

2011年 東京大学教養学部 冬学期  
全学ゼミナール「地球温暖化と経済学」講義感想文  
(履修登録者 5名、合格者 5名、感想提出者 4名)

山口 光恒

1、 文科2類1年

通年でゼミを受けたのですが、冬学期は前期で学んだ知識をアウトプットできるディベートという機会が設けられていて良かったです。しかももう数回ディベートを数多くやりたかったのと、もう少しディベートに向けた準備中段階があれば良かったと思いました(論点の提出やそのコメントバイトやなど)。レポートでディベートで扱った内容を書いたことで自分なりに原発や再生可能エネルギーについてじっくり考えられました。現在まさに問題となっていることについて自分の意見を述べられて良いレポート課題だったとおもいます。先生のゼミでものを経済学的視点から見ることを学びました。1年間ありがとうございました。

2、 文科2類1年

夏学期に引き続き受講しましたが、今回は2回のディベートを行ったり、講義のあとに先生とお話をさせていただいたり、先学期以上に有意義な経験ができました。特にディベートは、複雑な議題だったために調べるのが大変でしたが、実際にやってみると1時間半では議論しつくせないほど白熱した内容となり、主張を通すことの難しさと同時に意見を戦わせることの楽しさも味わうことができました。

地球温暖化やエネルギー政策の問題は、私たちの世代にとっては今以上に緊迫した問題になってくると思うので、この講義で得た知識や観点を活かし、どんな立場にあってもこれらの問題の解決に少なからず取り組んでいかなければならないと思います。

先生の海外における活動のお話も大変興味深く聞かせていただきました。1年間本当にお世話になりました。

3、 文科2類1年

先学期から継続して受講させていただきました。前期で基本的な理論の大部分が終わっていたため、後期では温暖化交渉の現場に関する話が聞けてとても興味深かったです。一度見せていただいたビデオも交渉の雰囲気を感じられました。

後期は先生との会食やゼミ内でのディベートもあって、より一層ゼミらしく楽しく活動で

きました。ディベートのためにいろいろと調べたことが、大変ではあったけれど自分の中に知識となって残っており、他人と別の場で議論出来るようになりました。このゼミを取ることによって自身の進みたい方向が少し見えてきたように思います。一年間ありがとうございました。

#### 4、 文科2類1年

京都議定書での先進国の削減目標決定過程において経済学的に合理性のあるものではなく、むしろ政治的妥協の産物に近いものであることがわかり、日本が京都議定書の単純延長に強硬に反対しているのは国益や経済学、また実効性のある地球温暖化防止の観点からいっても当然だと思った。この授業を聞いて、鳩山政権の1990年比25%の削減目標には科学的根拠が十分でないこと、日本経済への影響や削減にかかるコストが十分に検討されていないこと、京都議定書での1990年比6%目標でさえ、サブプライム危機以降の不況がなければ原発事故が起らなかったとしても達成はほぼ不可能であったことを知り、真に実効性のある温暖化防止策を実行するには、まず過去の実績とその当時の状況、それと比較したうえでの現在や将来の状況の把握が必要であると思った。